



< 残暑お見舞い申し上げます。「立秋」と聞けば、風も涼しくなったことでしょう。>

* 8月 (LE MOIS D' AOUT)

8月に入って、日中の気温は平均して29℃と高く、3日は33℃になりましたが、既に「立秋」を迎えて、陽光は少しずつ傾き、部屋の中20cm位まで差込むようになり、空には飛行機雲が交差しています。湿気が無いのは助かりますが、永らく雨が無く渇水状態 (la sécheresse) なので、トウモロコシ (le maïs) が不作、野の牧草は枯れ草となって牛や羊などの家畜は可哀想、牛乳、羊乳の質が変わるのではないかと、バターやチーズはどうなるのか、暑さ続きで早く熟した杏や桃、メロンな



どは山積みで大安売り、少々早い収穫を余儀なくされたブドウからワインの今年の出来はどうなるか、心配はいや増すばかりですが、これも《C' est la vie.》(セ・ラ・ヴィ) (仕方がないか) と静観するより他は無いようです。マロニエの大きな葉も場所により早くも“枯葉” (les feuilles mortes) を唄い始めました。8月は「葉月」と呼ばれますが、その由来は諸説あり、木の葉が紅葉して落ちる月「葉落ち月」、「葉月」であるという説が有力、とは物識りな友人が教えて呉れました。土手に黄色のエニシダ (le genêt)、少し中に入ればヒース (la bruyère) が咲いて秋の気配を感じます。9月の新学期をひかえて、スーパーやデパートの文具売り場が賑わってきました。

* パリ・プラージュ (パリ・ビーチ) (PARIS PLAGES)

2002年の夏から毎年セーヌ河岸を海浜のように変え、パリっ子のヴァカンスにパリ市が提供する「パリ・プラージュ」は、ベルニエール・シュル・セーヌの石切り場 (la carrière de Bernières-sur-Seine) から川船 (la péniche) で運ばれた5000トン余りの砂を敷き詰め、350脚のデッキチェア (le transat) や240本のパラソルを備え、海浜遊びやピクニックをする人達ばかりでなく、見物だけの好奇心 (la curiosité) いっぱい



の散歩客も加わり、賑やかに開かれています。但し、いくら“海浜”、“砂浜”とはいえ、ブラレス、ボトムレスは勿論、幼児のヌードもご法度、勿論セーヌ河に飛び込んでの遊泳も厳禁です。セーヌ河岸はルーヴル宮辺りからシテ島、サンルイ島対岸をシュリー橋 (Pont de Sully) 辺り迄、とパリ市庁舎前広場で8月16日迄、ヴィレット運河堀 (le bassin de la Villette) は8月23日迄、いずれも朝09時から夜半まで入場無料、誰もが自由に海浜気分を味わえます。8月7日の夜、早慶上智三学パリ同窓会共催の納涼会がセーヌ河岸で開かれたので出掛けました。東大赤門会、一ツ橋如

水会、関学同窓会などにも声を掛けて 40 名程が集まり、持ち寄った料理やワインを分け合い、川風も気持ちよく、美味しく、親しく、賑やかに、夜半近く迄を共に過ごしました。

* 船の賑わい (L' INCESSANT MOUVEMENT DE BATEAUX)

戦艦「エルミオーヌ」(LA FREGATE 《 L' HERMIONE 》) : アメリカ独立戦争に参戦すべくルイ 16 世の命を受けたラファイエット将軍(La Fayette(1757-1834))が1780年に大西洋を渡った時の戦艦“エルミオーヌ”と全く同じ船を造って、同じコースを航海しようとの計画に基き、17年もの年月を費やして今年の2月に進水したレプリカは、ロシュフォールのドックを出て4月18日



シャラント河口エクス島から出帆、6月5日ヴァージニア州ヨークタウン着、7月4日アメリカ独立記念日(Fête de l' indépendance des Etats-Unis)にニューヨークに到着、沢山の船の伴走を受けて堂々のパレード、米仏友好を祝いました。使命を終えて、当初の目的どおり帰路につき、2度の嵐に襲われて難破寸前までになったそうですが、8月11日午後ブレストへ無事入港、4ヶ月の大航海を終えました。

* マルセイユに7艘の巨船 (LES 7 COLOSSES A MARSEILLE)

8月7日マルセイユ港に世界一周や地中海クルーズの大型客船が一度に7艘も寄航、それも9階、10階建てのビルディングがそのまま海に浮いたような超大型客船、例えば「アリュール・オブ・ザ・シーズ(Allure of the Seas)」号は全長362m、排水トン22万5千トンで乗組員だけでも2400人、5500人の客を載せてやって来ました。その為タクシー、レストランやブティックなどが俄かに忙しくなりました。こうした巨船の殆どはフラン



ス製で、この「アリュール・オブ・ザ・シーズ」号の姉妹船「ハーモニー・オブ・ザ・シーズ」号もロワール河口近くのサン・ナゼール(Saint Nazaire)で建造され、排水トン数22万7千トン、乗組員2100人、乗客6260人という世界一大きい客船、もう一艘の「オアシス・オブ・ザ・シーズ」号も同様で、世界の海に活躍しています。(その昔香港、マニラ、サイゴン、シンガポールへ向けて横浜南大棧橋から乗ったマルセイユ行の貨客船、真っ白な船体も眩しい MM(Messageries Maritimes)の「カンボジア」号、帰りに乗った「ヴェトナム」号、いずれも当時としては1500トン級の大型船でしたが、今は排水トン数も乗客数も桁違い、と驚くばかりです。横浜といえば山下公園に係留されている「氷川丸」、1万トン級の日本で一番大きい客船だと、友人と連れ立ってわざわざ見に行ったものですが、今年就航から85周年を迎えた由、戦時中は病院船、戦後は引揚げ船として活躍した、と“終戦後70年”特集記事にあり、懐かしく思いました。)

* 世界最大のコンテナ船「ジュール・ベルヌ」号 (« Jules Verne » LE PLUS GROS PORTE-CONTENEUR DU MONDE)

フランスの CMA-CGM 社が誇る世界最大のコンテナ輸送船「ジュール・ベルヌ」号はフランス製ではなく韓国製、全長 396m、きつ水 16m (long de 396 m avec un tirant d' eau de 16m)、16000 台のコンテナを 23 列に積み、欧亜間の貨物輸送に就航しています。乗組員は 24 人のみで運航、しかし荷降ろしには 5 日かかるそうです。



(Il est capable de transporter 16 000 conteneurs sur 23 rangs qu' il faut 5 jours pour décharger en totalité)

* スエズ運河 (LE CANALE DE SUEZ)

外交官であり企業家のフランス人フェルディナン・ド・レセップス (Ferdinand de Lesseps (1805-1894)) が描いた大きな夢は“地中海と紅海を結ぶ” (relier la Méditerranée à la mer Rouge) ことでした。当時地中海或いは大西洋岸からアジア方面へ行くには、遠くアフリカ大陸最南端の喜望峰 (le Cap) を廻らねばならず、スエズに運河を掘ることにより莫大な距離を縮めることになると考えたのです。1859 年 4 月 25 日に始まった大掛かりな工事 (les travaux titanesques) は 10 年続いて 1869 年 11 月 17 日に 193 km の運河が完成、ナポレオン 3 世妃ユジェーヌを迎えて開通式を挙りました。(le canal de Suez est inauguré en présence de l' impératrice Eugénie, épouse de Napoléon III) この運河を巡って戦争も起りましたが、現在はエジプトの所有・管理となり、その後も常に多少の工事が続き、此の度途中 37 km に亘る拡張工事と、35 km の更にもう一本の運河を掘って複線化に成功、船舶の巨大化に迎え、今までの 2 倍の運航を可能にして、この 8 月 6 日にフランスのオランド大統領も出席して、改めて開通式が執り行なわれました。



2015 年 8 月 15 日 Assomption (聖母被昇天祭) 日の出 06 時 42・日の入 21 時 06 天気：パリ朝夕 16℃・日中 22℃曇天、ニース 22℃・26℃雨天、ストラスブール 17℃・20℃雨天、コタンタン 13℃・17℃雨天
流れ星を見る絶好の季節ですが雨天で残念。陸前高田市田崎飛鳥さん描く「星になった人」を見ました。